

平成 29 年度  
学生生活実態調査報告書  
(学部・大学院)

平成 30 年 2 月



広島大学

## はじめに

大学は、高度な研究を行う第一線の研究者が、みずからの学術研究をふまえながら授業や演習、研究指導を行うことで、学問的成果や今まさに発展しつつある学問の魅力を伝え、学生自らがその分野で学問の課題を見出し、解決する能力を培わせる場です。また大学は、課外活動にも打ち込める環境を用意し、学生の自主的な成長・育成を後押しする責務があります。それらの過程を通じて、将来どのような場においても、予測不能な課題に対して解決可能な人材を育成する場が大学であると言えます。

学生の成長・育成を後押しするためには、絶えず学生の生活実態や現況、多様なニーズを把握して分析・評価し、学生の生活環境や学生支援のあり方を改善する必要があります。広島大学では、学部学生のみを対象とした学生生活実態調査を、1990年度と1993年度、2006年度、2014年度に実態調査を実施しました。現在はすべての学部学生、大学院学生、専攻科生を対象として隔年で学生生活実態調査を行っています。

2017年度の学生生活実態調査は、学生生活会議のもとに学生生活実態調査ワーキング・グループを立ち上げ、アンケート実施期間、アンケート項目、アンケート実施の周知方法及び回答率を上げるための方策を検討しました。アンケートの質問項目については学生生活実態の経年的変化を解析したいため、これまでの質問項目をほぼ踏襲しております。また2014年から、社会の変化や最近の学生生活を鑑み、新たに「Social Network Serviceの使用時間について」という項目を加えました。また、学生にとってわかりやすい質問となるように、選択肢の文章を工夫いたしました。実施方法は、これまで通り「もみじ」のアンケートシステムにより行い、作成した学生生活実態調査報告書は本学ホームページで公表することにしました。また、自由記述「広島大学に伝えたいこと」については、課題領域、全学・部局等のカテゴリーに整理して、電子データにより各部局にも提供し、各部局でも有効に利用して戴くことにしました。

アンケート回答率を上げるための方策について、本学の外国人留学生がアンケートに回答しやすいように、各設問を英語でも表記することにしました。また、アンケート回答者の中から抽選で100名に生協の電子マネーチャージ券1,000円分を贈呈しました。これまでの学生のアンケートの回答によって改善した内容はポスターに記載して学生に周知することにしていきます。

アンケートは、2017年10月3日(火)～11月10日(金)の期間に実施しました。全学生15,379名中、回答者数は3,447人(前回は2,111名)、回答率22.4%(前回は14.2%)(学部生22.5%,大学院生22.2%)でした。

選択式アンケート結果からは、1) 大学祭などの大学全体で実施する課外活動への参加率は、総合科学部と教育学部の学生が群を抜いて多いこと。2) 大学内にいる時間数は、理系で多く、文系で少なくなっておりますが、それとは無関係に多くの学生がアルバイトを実施しており、平日か週末のどちらかで12時間以上行っている学生が12.2%もおりました。3) 大学内で滞在している場所は、教室や研究室以外では図書館が8.4%となっており、このような場所が自学自習の場となっている事がわかりました。4) 学生収入の内、家庭からの給付(49.1%)に次いで多いのがアルバイト(29.9%)で、次に多いのが奨学金(19.9%)であり、多くの学生が生計を家庭からの給付とアルバイト、そして貸与の奨学金に頼っていることがわかりました。5) 1週間の授業外学修時間は全ての学部で同じような傾向を示し、0時間が20.4%、5時間未満が51.0%もあり、7割以上の学生が未だに授業外学修時間が不十分である事がわかりました。これは、学生の主体的な学修を目指していかなければならない状況の中で大きな問題であり、教員の方々には各授業科目で学外学修を促す講義形式に改善して戴くようお願いしたいと課題と考えます。6) チューターへの素運団時間では、全体の67.6%が相談したことが無いと答え、特に法学部と経済学部では90%弱の学生がチューターと相談した事が無いと答えていました。この結果も、学生に関係した事件や事故、および鬱病などで大学に出てこられない学生がいる中で、チューターの役割が重視され、本学では複数教員の指導体制が整えられていると国内でも評価されている状況において、これも改善すべき大きな問題と考えられます。

本学に伝えたいこと(自由記述)では、「駐輪場の少なさ」「自転車の駐輪マナーの悪さ」、「外国人留学生への対応が不十分、外国語で書かれた通知文が少ない」という声も昨年同様にあります。この他にも学生から重要な個別意見がたくさんありました。これらの声を無駄にしないよう、できるかぎり学生にフィードバックしていきたいと考えております。

また、今までSERU(Student Experience in the Research University)の学生調査と交代で隔年のアンケートを行って来ましたが、次年度からは両者の回答項目の重複を避けながら、学生生活実態調査と同時

に実施し、回答者に返礼品と配付する電子マネーチャージ券の量を増加させて解答率を向上させる計画をしております。

最後になりましたが、今回のアンケートに回答、協力していただきました学生諸君、アンケートの検討、学生生活実態調査報告書のためのデータ分析にご協力戴きましたWG委員の方々、関係事務・教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。

本学生生活実態調査が、広島大学の学生生活の改善に、また、学生支援の充実に繋がり、結果的に有能な人財を世に送り出すことに貢献できることを願ってやみません。

平成30年2月

広島大学副学長（学生支援担当）  
古澤 修一

# 目 次

## I 調査概要

1 調査期間, 調査対象, 調査方法	1
2 回答者の内訳	1

## II 設問と回答分布

### 【学 部】

1 大学生活において大切にしているもの	3
2 学内外のクラブ・サークル活動への参加	3
3 大学の行事への参加	4
4 ボランティアや地域活動への参加	4
5 アルバイト	5
6 大学構内での滞在時間・場所について	6
7 大学構内でくつろいで過ごせる場所	8
8 1ヶ月の生計費(収入・支出)	8
9 1週間の学習時間	12
10 所有もしくは占有している物	14
11 Social Network Serviceの使用状況について	14
12 犯罪やトラブルなどの被害経験	15
13 交通事故の経験	15
14 喫煙及び飲酒の習慣	16
15 薬物(大麻等・覚醒剤)や危険ドラッグ等について	17
16 授業以外の学生生活の充実度	17
17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス	18
18 学生生活の悩み	18
19 チューターへの相談と相談内容	19
20 現在の健康状態	19
21 身体面・心理面の悩みの解消	20
22 友人との関係	20
23 教員との関係	21
24 学生交流スペースの利用	21
25 所属学部の学生支援室の対応	22
26 学生プラザの学生支援部門の対応	23
27 本学の教育・学習, 学生生活などの全体的な満足度	23
28 居住形態	24
29 通学方法	24

## 【大 学 院】

1	大学生活において大切にしているもの	2 5
2	学内外のクラブ・サークル活動への参加	2 5
3	大学の行事への参加	2 6
4	ボランティアや地域活動への参加	2 6
5	アルバイト	2 7
6	大学構内での滞在時間・場所について	2 8
7	大学構内でくつろいで過ごせる場所	3 0
8	1ヶ月の生計費（収入・支出）	3 0
9	1週間の学習時間	3 4
10	所有もしくは占有している物	3 6
11	<b>Social Network Service</b> の使用状況について	3 6
12	犯罪やトラブルなどの被害経験	3 7
13	交通事故の経験	3 7
14	喫煙及び飲酒の習慣	3 8
15	薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について	3 9
16	授業以外の学生生活の充実度	3 9
17	授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス	4 0
18	学生生活の悩み	4 0
19	チューターへの相談と相談内容	4 1
20	現在の健康状態	4 1
21	身体面・心理面の悩みの解消	4 2
22	友人との関係	4 2
23	教員との関係	4 3
24	学生交流スペースの利用	4 3
25	所属研究科の学生支援室の対応	4 4
26	学生プラザの学生支援部門の対応	4 5
27	本学の教育・学習，学生生活などの全体的な満足度	4 5
28	居住形態	4 6
29	通学方法	4 6
III	資料 学生生活実態調査アンケート項目（もみじ画面）	4 7